

令和元年度 受賞校一覧

大学等名	科目名	取組概要
新潟大学 最優秀賞	フィールドスタディーズ	1 学年時に大学で学ぶことに対する動機づけを高めるとともに、 <u>専門領域への関心を焦点化することを目的に、日常生活に関連する地域や産業界における現状の理解や課題の解決を行う4週間（実質1 2日間）のプログラムを実施。</u>
跡見学園女子大学 優秀賞	インターンシップ	授業で学ぶマネジメントの基礎を就業体験の中で確認し、3年次以降に学ぶ専門科目に対する意識を高めることを目的に、 <u>受入先の企業活動に従事し、「ヒト・モノ・カネ・情報」の流れや社会の仕組み、社会が求める人材像について理解する10日間のプログラムを実施。</u>
甲南大学 優秀賞	BP (ビジネス・プロフェッション) インターンシップⅠ・Ⅱ・Ⅲ	<u>専門教育として学んだ経営学の知識を、企業の経営管理の現場で実践することを目的に、経営に関する専門的知識を身に付けた上で、受入先企業における就業体験を通して、経営課題の発見と改善策の提案を行う3か月間の長期プログラムを実施。</u>
宮崎大学 優秀賞	国内インターンシップ	具体的な目標をもって実務に関わることで、 <u>地域における課題や資源の可能性を体感し、自ら考え行動する力を身に付けることを目的に、企業や地域団体等において、業務に係る課題分析や新規事業の試行等をプロジェクト化して1か月間のプログラムとして実施。</u>
大阪府立大学 選考委員会特別賞	イノベーション創出型 研究者養成Ⅲ（TECⅢ）	大学と企業における研究活動の違いを理解し、 <u>産業界を牽引する博士人材として高い実業的センスを身に付けることを目的に、企業における事業化・実用化を前提とした研究開発業務に取り組む3か月間の長期プログラムを実施。</u>

※特別賞（数理・データサイエンス・AI分野におけるインターンシップ）は該当なし

新潟大学 『フィールドスタディーズ』

インターンシップの概要

目的：入学後早期に大学で学ぶことに対する動機づけを高めるとともに、専門領域への関心を焦点化すること

対象：創生学部・1年次・必修科目

概要：日常生活に関連する地域や産業界における現状の理解や課題の解決を行う4週間（実質12日間）のプログラム

評価のポイント

正規の教育課程

低学年

- ✓創生学部4年間の教育課程における位置づけと目的が明確
- ✓大学と社会の対話により協働で人材育成を行う契機としてインターンシップを活用

組織的な実施体制

FD・SD

- ✓「学修ハンドブック」による担当教職員の共通理解と安定したインターンシップの質の確保
- ✓担当教職員のFD・SD活動において教職協働で「学修ハンドブック」を作成

教育的効果

追跡調査

- ✓伸ばしたい学生の資質・能力が明確
- ✓学生の変化を卒業まで追跡する学生調査を実施し、教育課程全体でインターンシップの効果を把握



第2ターム（平成30年6月11日（月）～8月6日（月））							
事前学修		学外学修				事後学修	
第1週	第2週	第3週	第4週	第5週	第6週	第7週	第8週
(6/12,6/13,6/14)	(6/19,6/20,6/21)	(6/26,6/27,6/28)	(7/3,7/4,7/5)	(7/10,7/11,7/12)	(7/17,7/18,7/19)	(7/24,7/25,7/26)	(7/31,8/1,8/2)
学外学修における基本方針							
授業ガイダンス ↓ チーム編成 全体レクチャー ↓ 個人目標設定 ↓ フィールド事前調査 グループ目標設定		フィールドに関する事前レクチャー ① 学外での活動は平成30年6月26日(火)～7月19日(木)の「平日火曜・水曜・木曜9:00～17:00」とする ② グループ単位での活動を原則として、1グループの学生数は3～5名とする ③ 学外学修期間すべてを学外で学修することを想定せずに、フィールド先との協議で、必要に応じて学内学修によって学習の振り返り等を進め、教育成果の質を担保するようデザインする ④ 学修すべき課題(活動)は、フィールド先との協議によって調整する				フィールドにおける学修の総括 ↓ 事後学修ガイダンス ↓ グループでの学修成果のまとめ(プレゼン準備) ↓ プレゼンテーション ↓ 講評 ↓ レポート提出・評価	

問合せ先

新潟大学学務部連携教育支援課

Tel : 025-262-6309

E-mail : renkeikyoiku@adm.niigata-u.ac.jp

跡見学園女子大学 『インターンシップ』

インターンシップの概要

目的：授業で学ぶマネジメントの基礎を就業体験の中で確認し、3年次以降に学ぶ専門科目に対する意識を高めること

対象：マネジメント学部・2年次・必修科目

概要：受入先の企業活動に従事し、「ヒト・モノ・カネ・情報」の流れや社会の仕組み、社会が求める人材像について理解する10日間のプログラム

評価のポイント

正規の教育課程

低学年

- ✓ マネジメント学部の教育課程における位置付けと、2年次に実施することの目的が明確
- ✓ 他の授業科目に影響を与えないよう、夏季休業期間中に実施

組織的な実施体制

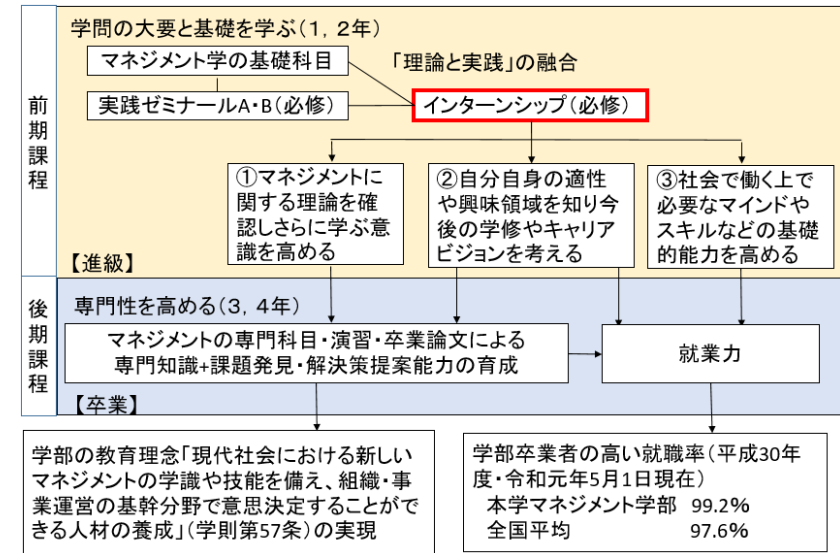
全学的な体制

- ✓ 学長を議長とする「アカデミック・インターンシップ運営会議」を設置等、全学的な実施体制
- ✓ 特任職員の配置により、教員は学生の指導及び受入先との連絡調整に注力

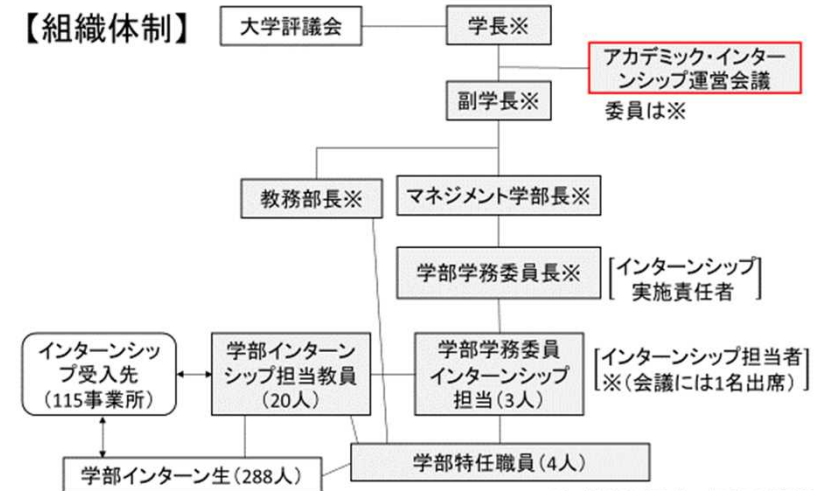
企業等との協働

企業開拓

- ✓ 毎年200名を超える学生の実習先を確保
教育目的を理解した受入企業が100社以上
- ✓ 企業が教員と協働で実施計画書を作成することで、プログラムの質を確保



【組織体制】



注：数字は平成30年度の実績

問合せ先

跡見学園女子大学マネジメント学部研究室
048-478-4110 sakura-ml@atomi.ac.jp

甲南大学『BP (ビジネス・プロフェッション) インターンシップⅠ・Ⅱ・Ⅲ』

インターンシップの概要

目的：専門教育として学んだ経営学の知識を、企業の経営管理の現場で実践すること

対象：経営学部・3年次・選択科目

概要：経営に関する専門的知識を身に付けた上で、受入先企業における就業体験を通して、経営課題の発見と改善策の提案を行う3カ月間の長期プログラム

評価のポイント

正規の教育課程

専門教育

- ✓事前教育・インターンシップ・事後教育すべてに単位を付与
- ✓経営課題の発見と改善策の提案という高水準かつ負荷の大きなテーマ設定

組織的な実施体制

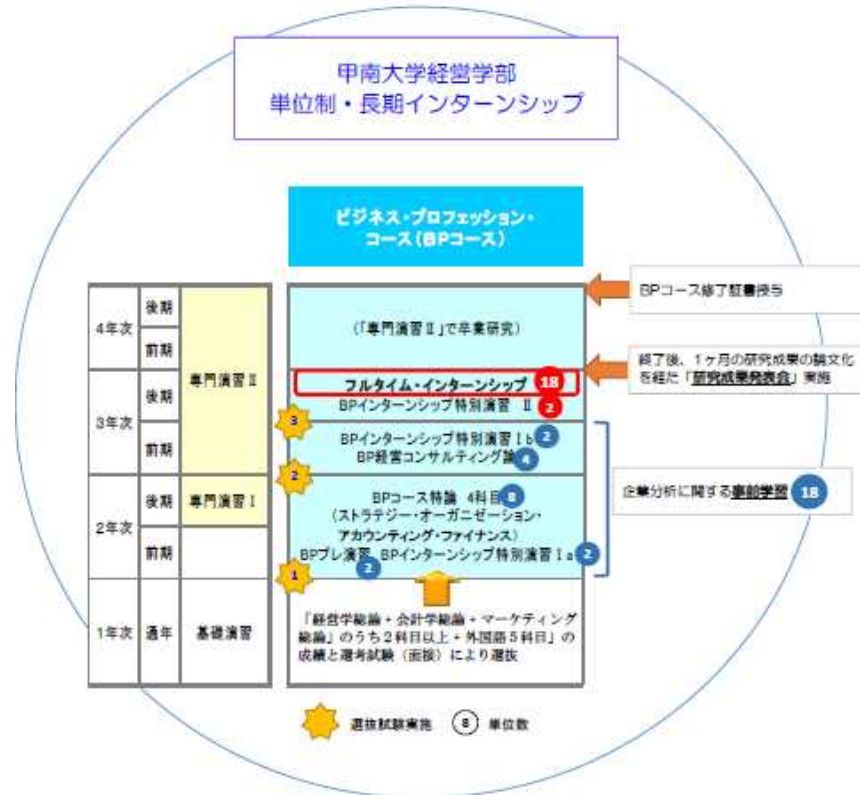
学部全教員

- ✓経営学部の全教員が持ち回りで担当
- ✓経営学部に委員会を設置し、企画・立案と実施・評価を分担して実施

5日以上

長期間

- ✓3カ月にわたる長期間のインターンシップ毎週土曜日には教員による週末指導
- ✓現場で必要な知識を身に付けるため、事前教育を1年半にわたり実施



【インターンシップ先】

アシックス商事(株)、加藤産業(株)、神戸信用金庫、(株)神戸ポートピアホテル、(株)シマブンコーポレーション、(株)トーホー、(株)パソナグループ、三ツ星ベルト(株)、ヤンマー(株)、ヤンマーアグリジャパン(株)

問合せ先

甲南大学 経営学部 担当：経営学部事務室 (森)

Tel : 078-435-2441

E-mail : ei@adm.konan-u.ac.jp

URL : <https://www.konan-biz.com/>

宮崎大学 『国内インターンシップ』

インターンシップの概要

目的：具体的な目標を持って実務に関わることで、地域における課題や資源の可能性を体感し、自ら考え行動する力を身に付けること
対象：地域資源創成学部・2, 3年次、選択必修科目
概要：企業や地域団体等において、業務に係る課題分析や新規事業の試行等をプロジェクト化した1カ月間のプログラム。

評価のポイント

正規の教育課程

主体性

- ✓企業による受入学生の選考面接を実施する等、学生の主体的な行動を促す仕組み
- ✓学生自身がインターンシップの実施目的と教育効果を理解し、成果目標と行動計画を作成

組織的な実施体制

専門人材

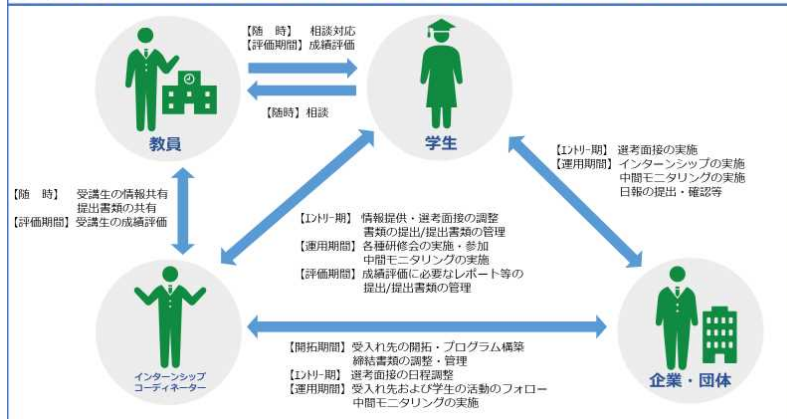
- ✓専任教員としてコーディネーター2名を配置
受入先企業の開拓、プログラムの設計、実習中のモニタリング等、一連の運営を担当

企業等との協働

受入れメリット

- ✓企業が必要性を感じながらも人手や時間が足りずに取組めない案件をテーマにする等、受入企業等にとっても成果が得られるプログラム

組織体系図 ~教員とインターンシップ・コーディネーターが連携した運営体制を実現~



実施スケジュール ~選考面接と事前・事後の研修会により、受講生の当事者意識を引き出す~



問合せ先

宮崎大学 地域資源創成学部 担当：桑畑
 Tel : 0985-58-7449
 E-mail : n.kuwahata@cc.miyazaki-u.ac.jp
 URL : <http://www.miyazaki-u.ac.jp/internchiiki/>

インターンシップの概要

目的：大学と企業における研究活動の違いを理解し、産業界を牽引する博士人材として高い実業的センスを身に付けること

対象：全研究科・博士後期課程・選択科目

概要：企業における事業化・実用化を前提とした研究開発業務に取組む3ヵ月間の長期プログラム

評価のポイント

正規の教育課程

大学院

✓他の大学院共通教育科目と有機的に連携しており、イノベーション創出型研究者養成のための体系的な教育課程の一部に位置付けられている

組織的な実施体制

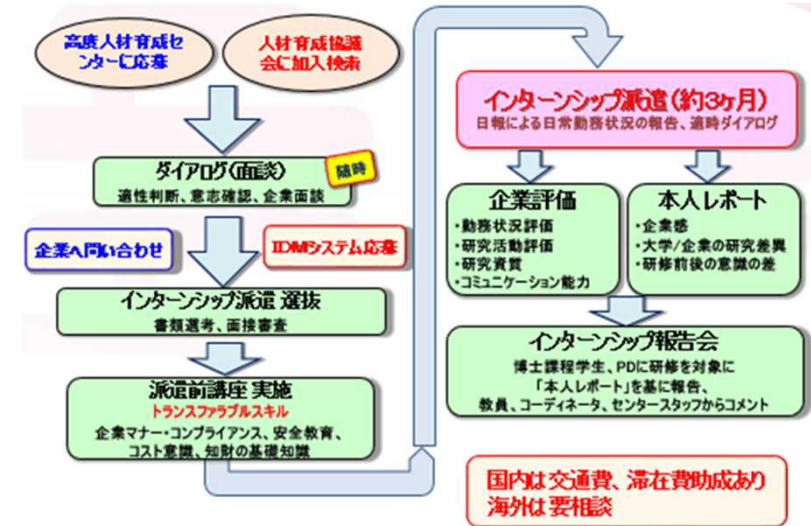
専門人材

✓「高度人材育成センター」に企業出身のコーディネーターを配置し、企画・立案・実施を担当
 ✓教授会等による自己評価と、企業等の学外者を含むアドバイザリー委員会による評価を実施

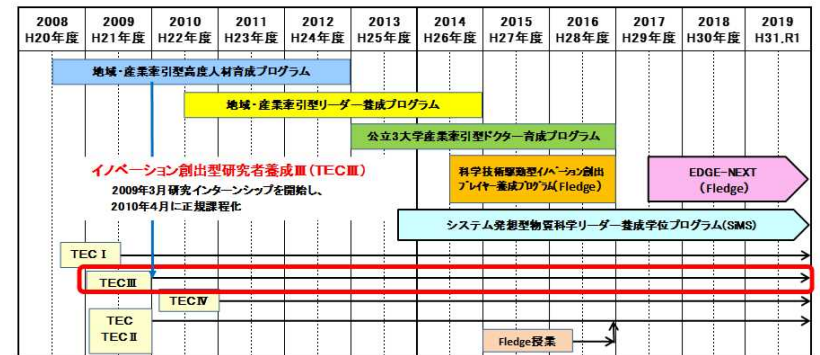
研究力強化

高度研究人材

✓博士課程修了者のキャリアパス拡大
 産業界で活躍する民間研究者や高度人材の育成
 ✓博士課程教育の魅力向上と進学者数の増大



高度人材育成センター担当プログラムとTECⅢの位置づけ及び養成者数



問合せ先

大阪府立大学高等教育推進機構高度人材育成センター
 TEL : 072-254-8265
 E-mail : jinzai@21c.osakafu-u.ac.jp
 URL : <http://jinzai.osakafu-u.ac.jp/>